

平成30年度青森県協同農業普及事業外部評価委員会における主な意見等

【主な普及指導計画】

東青地域県民局地域農林水産部

課 題 名	評価結果	主な意見等	普及指導計画の改善策
地域経営を担う集落営農組織等の法人化と経営改善支援（H29～31年度）	A：3名 B：1名 C：1名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 法人が連携し事務職員を雇用するなど、成果が出てきているので、関係者が連携し更に工夫に努め、取組を進めていただくことを期待します。（森委員）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 蓬田村の新法人を新たに加えて<b>集落営農ネットワークを拡大</b>するとともに、平成30年度に策定した<b>集落営農ビジョンの実現に向けた方策を検討し、具体的な連携活動を実施する。</b></li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高収入作物の明確化はかなり難しいものと思われるが今後の取り込みに期待している。（蒔苗委員）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高収益作物栽培実証ほを引き続き設置し平成30年度に確認された問題点や課題を踏まえて栽培技術の向上を図る。</li> <li>・ 収益性や労働時間等2か年の成績を取りまとめ、地域に適した高収益作物を選定する。</li> </ul>

課 題 名	評価結果	主な意見等	普及指導計画の改善策
<p>「津軽のミニトマト」の産地力強化（H30～32年度）</p>	<p>A：3名 B：2名</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ミニトマトに取り組まれる方々の経営上の位置づけは、それぞれ異なるように思われました。その点を加味した、普及指導を行っていただきたい。（吉仲委員）</li> </ul>	<p>生産者個々の経営形態（複合・専作・兼業など）や労働力の過不足を把握し、今後の個別経営の発展方向を見据えた<b>経営モデルの情報提供や省力技術導入等の提案</b>を行っていく。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>順調に売上げが伸びてきているとのことですが、全国的にミニトマトの生産が拡大し競争が激しくなっていることもあり、検討されているワンランク上の商品づくりについて、他地域との差別化、強みについて更に関係者により工夫いただき、可能性について幅広くチャレンジいただくことを期待します。（森委員）</li> </ul>	<p>主力品種のサンチェリーピュアについては、品質・食味の評価されスーパー等のレギュラー品として定着しつつあるため今後も拡大を図っていく。また、<b>ワンランク上の商品</b>として、より食味に優れる品種を採用し、栽培方法を工夫し糖度を高めたもの等を首都圏のレストラン等へサンプル提供し求評を行う。商品づくりにあたっては、土地柄、歴史的背景など当産地ならではの<b>特徴・優位性</b>を関係者で洗い出し、流通事業者及び実需者のアドバイスを受けながら、ストーリー性のある商品づくりを進めていく。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>都内レストラン等へのサンプル提供後、結果をその後のマーケティングにどう活かすか、拡大継続できるのか、難しいことだと思うが期待している。（蒔苗委員）</li> </ul>	<p>実需者の評価を踏まえて改善を重ね、商品のブランドイメージの浸透を図り、産地の<b>プライスリーダー的な商品</b>として定着を図る。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>新規就農者の個別カルテ作成とそのデータをJAと共有する取組は、意義深いものと感じる。期待したい。（蒔苗委員）</li> </ul>	<p>個別カルテの中に改善点や目標等を明確にし、<b>新規生産者、JA、普及が共通認識</b>を持って、<b>個別巡回指導等</b>を通じて<b>早期の技術習得</b>を図る。</p>

課 題 名	評価結果	主な意見等	普及指導計画の改善策
<p>将来を見据えたにんにく産地の維持（H29～31年度）</p>	<p>A：3名 B：2名</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合的な土づくり、土壌改良に向けた指導メニューを是非確立してほしい。（吉仲委員）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>農林総合研究センターが開発した「施肥ナビ」等を活用して指導メニューの確立を図っていく。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>私は、にんにくを栽培していないが、近所で50年以上にんにくを作っている農家の話を聞くと被害は全然無いと聞いた。また、前は線虫の被害はあったが、今はほとんど被害が無くなった農家もいる。被害が少なくなった農家は土づくりが重要と言っている。薬剤による防除も必要だが、基本の土づくりをしていけば被害は少なくなると思うので、指導の方をお願いしたい。（漆戸委員）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>土づくりにより、害虫（イモグサレセンチュウ）の被害を軽減している農家から、<b>具体的に実践している土づくりの方法を聞き取り、効果を確認後指導</b>に活用していく。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>にんにくの病虫害対策に、土づくりで成功させた情報収集も進めたら良いと思います。（田村委員）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>病虫害の発生を抑え、高品質・多収を実現している農家から、堆肥、緑肥の活用や輪作体系、施肥チッソ量等、土づくりに関する優良事例を収集し、指導に活用していく。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>本県のにんにくは全国的にも評価が高く、大変重要な作物なので、今回の取組はもちろんのこと、普段から指導・啓発に取り組んでいただき、青森県のにんにくブランドの</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>優良種苗の確保、病虫害防除の徹底、収穫物の乾燥技術の向上</b>により高品質生産を徹底し、八戸農協、県総合販売戦略課と連携しながら、青森県のにんにくブランドの</li> </ul>

	<p>ンドの維持・発展に努めていただくことを期待します。(森委員)</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>「見せて実感させる」研修内容が高い効果を得ているとのこと。今後もこの手法を利用できる研修に期待したい。(蒔苗委員)</li> </ul>	<p>維持・発展に努めていく。</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>乾燥方法に問題があると思われる農家の、にんにくの乾燥庫内の温度を、視覚的に表示するサーマルカメラを活用して指導に当たった結果、指導効果が上がった事例で、今後も「見える化」の手法を活用して指導していく。</li> </ul>
--	---	--

課 題 名	評価結果	主な意見等	普及指導計画の改善策
<p>西北の魅力を感じるグリーン・ツーリズムの推進 (H29～30年度：更新予定)</p>	<p>A：2名 B：2名 C：1名</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の農業生産者等にどの程度のニーズがあるのか、不明瞭に思われた。(吉仲委員)</li> </ul> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 青森県の農家は接客が弱く、食べ物の提供以外、自分の所の(体験)メニューが少ない。せっかく自分の所を利用してもらった人に、食事が終了した後、農業体験ではなく観光に連れて行くような傾向が見られる。もっと青森県をPRできるようになっていただきたい。(田村委員)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本課題は生産者の強いニーズに基づいてのものではなく、人口減少が加速していく中で、当普及振興室が集落の維持には外部からの移住促進も必要と判断し、このきっかけづくりとしてグリーン・ツーリズムを取り上げたもの。</li> <li>・ 具体的には、当管内は労働力をすべて農作物生産に注ぎ込む意識が強く、グリーン・ツーリズムの実践者が少なく、受入団体も機能が弱い状況にあるものの、一部では、大学と連携して定期的に学生を受け入れており、ターゲットを少人数旅行の大学生とした。</li> <li>・ この取組みにより、農家や市町村もグリーン・ツーリズムに目を向け始めたことから、その拡大に向け、啓発と支援を続けていく。</li> </ul> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当地域では、多様な農作物を生産している農家の方が少なく、農作業体験のメニューづくりには苦勞しているところですが、岩木山やため池、小川を背景とした景観の中での農作業、伝統料理や工芸などの魅力があり、これらの見せ方を工夫しながら、西北、青森県をPRしていく。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>台湾受入れをドンドン発信してほしい。(田村委員)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>インバウンドの中でも特に親日的な台湾については、受入体制の充実を図りつつ、留学生の方々との連携、交流の状況のHP、ツイッターなどでの発信など、徐々に取組みを進めていく。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>グリーン・ツーリズム推進のため、受入農家、商品造成者、地元市町村など関係者が多く存在しますが、これら関係先を束ねコーディネートしていく安定した受入機関・組織が重要と思われるので、しっかりと育成いただくことを期待します。(森委員)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>農家の方々が受入だけではなく、その調整や誘客等まで取り組むのは非常に負担が大きいことから、市町村と連携しながら、地域おこし協力隊の活用などで、持続的な体制の構築を誘導していく。 具体的には、旅行業を営む方が事務局を務める「あおもり五所川原グリーン・ツーリズム協議会」が西北地域の中核的な受入組織となり得るよう、周辺市町とも連携しながら支援していく。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>グリーン・ツーリズム・モニターツアーは成功しても、その後が重要だと考える。今後、レポート定着していただけるようツアーの企画に期待したい。(蒔苗委員)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度の地元大学生による調査、今年度の首都圏大学生によるモニターツアーの結果を反映させ、首都圏大学の研修向けの旅行商品2コースを作成した。</li> <li>今後、これを地元の旅行企画会社や当地域に縁のある大学教員等へ提案し、来訪を働きかけていく。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>また、ツアー後も、大学生や教員による調査など大学との交流が続いており、2年間、集中的に取組を進めたことで、大きく</li> </ul>

			<p>はないが、着実に成果が出たともものと判断している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回で形成された関係を徐々に拡大し、定期的な受入につなげていく。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 協議会HPサイト、モニターツアー後のSNS等も期待したい。(蒔苗委員)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後、特に若い方々を受入した際には、「あおり五所川原グリーン・ツーリズム協議会」のHPでの紹介、また、インスタ映えするコンテンツの提供などによる来訪者のSNSなど、情報発信に努める。</li> </ul>

課 題 名	評価結果	主な意見等	普及指導計画の改善策
水稻（主食・飼料用）の省力技術導入及び飼料用米専用品種の作付け拡大（H30～31年度）	A：3名 B：1名 C：1名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水稻（生食・飼料用）の低コスト・省力栽培方法及び飼料用専用品種については、まだ課題もいくつかあるようなので、適宜、農家に情報提供し、十分コミュニケーションを取りつつ、取組を進めていただくようお願いいたします。（森委員）</li> </ul> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ （現状にかかれていた）なにより農家の収入減とならない実績、よい手段がでてくることを願いたい。（蒔苗委員）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <b>高密度は種移植技術</b>に取り組んでいる生産者から課題の収集に努めるとともに、展示ほ等を活用して<b>本地域に適した栽培法の確立を目指す</b>。また、直播栽培については既存の栽培マニュアルを活用し、きめ細かな栽培指導を行う。</li> <li>○ <b>飼料用米専用品種</b>については、生産者を対象とした栽培講習会等で栽培特性の周知に努め、導入拡大及びきめ細かな巡回指導を行う。</li> </ul>

課題名	評価結果	主な意見等	普及指導計画の改善策
<p>担い手育成と異業種との連携促進による直売所の活性化（H29～30年度：更新予定）</p>	<p>A：4名 B：1名</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規就農者に留まらず、既存の農家を巻き込む工夫があると、下北マルシェの魅力が向上するのではないかと。（吉仲委員）</li> </ul>	<p>出店者のネットワークを活用するとともに直売所の会員を対象とした<b>新規出店者の掘り起こし等</b>により、<b>地域の農家を巻き込んでいきたい</b>と考えている。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>異業種とのマッチングによる新商品開発、しもきたマルシェ参加直売所の増加など実績が出てきているので、下北地域の直売所の一層の販売力向上など運営強化のため、それぞれノウハウを有する県、市町村、JA、食品関係事業者、研究機関等が一体となって引き続き支援・育成していただくよう期待します。（森委員）</li> </ul>	<p>しもきたマルシェ実行委員や関係機関で構成されるプロジェクトチームが主体となり、<b>異業種と連携した商品開発や管内直売所の販売力向上に向けて、地域一体となって取り組んでいきたい。</b></p>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>下北地域には、他地域にない特色ある産物が豊富にあると思うので、それら産物も含め、下北地域の直売所の魅力をまずは県内の方々に広く情報発信いただき、認知度の向上にも努めていただくことを期待します。（森委員）</li> </ul>	<p>今年度作成した「しもきた地域産直マップ」や当農業普及振興室のFacebook「魅力発信！下北の農業」を通じて、<b>下北地域の直売所の魅力を広く情報発信していく。</b></p>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>新規就農者が中心となり実施している「しもきたマルシェ」の活動に今後も大いに期待したい。（蒔苗委員）</li> </ul>	<p>事業終了後の自主運営に向けて、出店料の徴収や学生ボランティアの活用、異業種との連携等も含めて、引き続き支援していきたい。</p>

評価区分 A：大いに評価できる B：概ね評価できる C：やや評価できる D：一部改善が必要 E：大幅な改善が必要

【普及指導活動の体制】

内 容	評価結果	主な意見等	普及指導活動体制の改善策
普及指導の組織体制、人員の動向、資質向上の取組状況等	A：4名 B：1名	<p><b>1 普及指導活動の体制</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ TPP、EPAとか、最近はよく新聞に出ますが労働力の確保とか、IT化とか、今年みたいに災害の多い年もありますので、様々なニーズがあると思いますので、なんとか維持していただき、農林水産業は近年好調であるのでこのような状況の維持、さらには拡大していくよう人員の体制を維持していただきたい。（森委員）</li> <li>・ 各振興室の体制については、現人数では工夫にも限りがあり、現状が最適なものと思われる。今後のこととして、可能であれば、「農林水産業」を柱とする本県では、経験豊かな民間・先輩の方々と連携し、力を合わせ、質と量を調べていただくことを願いたい。（蒔苗委員）</li> <li>・ 国の研修への本年度の実績数が少ないが、冬季間での充実することを願いたい。（蒔苗委員）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 引き続き青森県協同農業普及事業の実施に関する方針により、普及指導活動の体制づくりを進めていく。</li> <li>・ 青森県協同農業普及事業の実施に関する方針により、民間や普及指導員OB等との連携等を進め、普及指導活動を行う。</li> <li>・ 青森県普及指導員人材育成計画に基づき、国の研修内容を検討しながら研修の充実を図る。</li> </ul>
		<p><b>2 普及指導の人員の動向</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 是非、普及担当職員の維持に努めていただきたい。（森委員）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 引き続き青森県協同農業普及事業の実施に関する方針により、普及指導活動の体制づくりを進めていく。</li> </ul>

	<p><b>3 資質向上の取組状況</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 昨今の農福連携の進展など、農業普及指導の対象範囲は拡大していると思われます。そのような研修にも、ぜひ対応していただきたい。 (吉仲委員)</li> <li>・ 地球温暖化などの気候変動、IOTなど新たな課題、技術に対応した研修の充実にも努めていただきたい。 (森委員)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農福連携の取組については、レベルアップ研修会や現地検討会を開催し、障がい者の接遇能力の向上を図る。</li> <li>・ 地球温暖化対策やIOTなどの新技術については、各作物の専門技術強化研修の内容を充実を図る。</li> </ul>
--	--	--

評価区分 A：大いに評価できる B：概ね評価できる C：やや評価できる D：一部改善が必要 E：大幅な改善が必要